

第2回の学校運営協議会では、学校評価から浮かび上がるいくつかの課題について意見が交わされました。その一つを紹介します。

メディアと子どもたち、そして私たち大人の意識

前期学校評価アンケート「子どもたちのメディアコントロール」の項目では、次のような結果が出ています。

子ども：78%が「メディアのルールを決めて守ろうとしている」と回答。
保護者：56%が「とても守っている。少し守っている。」と回答。
教職員：コロナ禍において、メディアに触れる機会は増えている分、自分でうまくコントロールできない状況も増えているように思う。

学校では、オンライン等でのゲームや動画の視聴等で睡眠時間が減ったり、生活習慣が不規則になったりしている子どもの様子が見られるとのことでした。

子どもたちの学習やPTA等での研修でメディアに関係する指導や啓発活動を行っていますが、委員からは、現状やるべきことをやっている中で、子どもの評価は横ばいで、親の評価は高くないのはなぜかと問題提起がありました。親は、本当に「困っているのだろうか。」「困っているとしたら何に困っているのだろうか。」それを知ることが、問題の解決には必要ではないかということです。小学生段階では、自分だけでメディアをコントロールする力を付けることは難しいからです。親の支援は必要不可欠です。

協議会では、親は何が心配かを把握して、その解決に見合った研修や学習の機会を作ることが必要ではないか、と提言されました。心配していない親も含めて、親同士が不安やうまくコントロールできている体験談などを交流させて、家庭でのメディアコントロールに活かせるような機会が必要ではないかということです。

【一般的にメディア特にゲームや通信で起こり得る心配、不安なこと】

- 依存症の心配 課金など金銭上の心配 視力低下の心配
- 暴力的・刺激的な情報、過激な表現の影響への心配
- 他のことへの関心や意欲が減ることへの心配（運動の機会、読書の機会、外遊びの機会等が減ること） 実体験の機会が減ることへの心配 人権を侵害したり、されたりしないかという心配

学校の取組でメディアとの付き合い方について家庭でもルールを作っていることとします。そのルールがどのように実行されているかを確認しながら、生活実態やルールの内容を修正していくことが大切です。めざすところは、お子さんが自律的に適切にメディアと付き合いしていく力を付けていくことです。

参考：WHO（世界保健機関）は、2019年にゲームのやり過ぎで日常生活が困難になるゲーム障害を国際疾病に認定しました。2022年1月から適用されています。メディアコントロールは、世界的な課題となっています。